

(社) 日本原子力学会
第50回倫理委員会議事要旨

日 時 H22. 5. 18 (火) 13:30~17:10
場 所 日本原子力学会会議室
出席者 北村委員長、大場副委員長、作田幹事、小川(敬)委員、小澤委員、杉本委員、
辻委員、弘津委員、宮越委員、矢野委員、寺井部会等理事、久保田総務理事、
平山担当副会長(13名)
中野氏、平野氏(傍聴者)

配布資料

- 資料 50-1 第49回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 50-2① 技術者倫理教育(グループ・ディスカッション形式)報告書
- ② 第2回教育GPシンポジウム(技術者倫理講座)報告書
- 資料 50-3 ケースブックの作成予定と分担について
- 資料 50-4 第13回倫理研究会について
- 資料 50-5 2010年秋の大会(9/15-17)企画セッション提案書
- 資料 50-6 10周年記念行事について
- 資料 50-7(表) 倫理委員会 委員追加推薦案
- (裏) 第5期委員の追加について
- 資料 50-8 年度区切りの変更について
- 資料 50-9 平成22年度倫理委員会委員名簿
- 資料 50-10 次年度への申し送り事項
- 資料 50-11 技術倫理協議会(5/13)での検討依頼事項について

議事

1. 資料50-1により前回議事要旨(案)を確認し、(案)をとることとした。
2. 資料50-2①②により大場副委員長から2010年1月20日に福井工業大学において開催した技術者倫理教育他の報告書の紹介があった。報告書内容の見直しや倫理委員会ホームページへの掲載については福井工業大学の了解を得ているので、その作業を行うこととした。担当は、大場副委員長とした。

<全委員へ>

- ・報告書内容についてのコメントを2週間以内に、大場副委員長まで提出することとした。
3. 資料50-3により作田幹事からケースブックの作成予定と分担について提案があった。
「ケースブック3」は、9月末までに、できれば2010年秋の大会に間に合うように発刊準備を行うことになった。分担は、事例1:杉本委員、事例2:辻委員、事例3:三好委員、

事例 4:宮越委員、事例 5:矢野委員、事例 6:小澤委員、事例 7:小川（敬）委員、事例 8:弘津委員、事例 9:中野氏、事例 10:平野氏、全体取りまとめ:作田幹事とした。北村委員長及び大場副委員長は全体チェック、小川（敬）委員は必要な会計処理手続きを行うこととした。事例見直し時の留意点には、ケースブック 2 で導入した「検討のポイント」の作成や英数字の半角全角の統一案も追加することとし、更に事例の背景情報も含めて、後日、作田幹事から担当委員に電子メールで送付することにした。また、新しい事例の作成やケースブックの使い方などのアイデア提供についても可能な範囲で取り組むこととした。一つのアイディアとして、中越沖地震時の東京電力社員の対応をまとめた冊子「その時、仲間たちは（電気新聞）」の要点をケースブックに盛り込むことが提案された。ケースブックの頒布先についても、各委員で検討しておくこととした。

4. 資料 50-4 により大場副委員長から第 13 回倫理研究会開催案について提案があった。倫理規程の憲章 8 条に焦点を当てた本案の方向性は了承され、今後、担当の大場副委員長が講演者の人選と調整、開催場所の選定にあたることになった。
5. 資料 50-5 により小川（敬）委員から 2010 年秋の大会企画セッション案について紹介があった。復旧対応に対する感想は、北海道大学の奈良林先生にお願いすることとした。また、東京電力作成の「その時、仲間たちは（電気新聞）」を読んでいない人のために、小川（敬）委員が当日、要約を紹介することになった。
6. 資料 50-6 により大場副委員長から 10 周年記念行事案について提案があり、大筋了承された。分担は、①会員アンケート・②委員会活動記録：大場副委員長・平野氏、③倫理規程改訂経緯のまとめ：大場副委員長、④関係者（規定制定委員、倫理委員）の会食懇談：北村委員長・大場副委員長、⑤春の年会、秋の大会における企画セッション：中野氏・矢野委員、辻委員、⑥シンポジウム：未定、⑦研究会：平野氏とした。なお、⑥シンポジウムにおいては、平成 23 年 11 月を目途に他分野の先生方の講演や他協会との共催、①から④の概要紹介について、⑦研究会においては⑥との統合について検討することとした。また、上記については、可能な限り記録をとることとした。
7. 資料 50-7 により大場副委員長から中野、平野両氏を第 5 期委員として追加する件について 5 月 28 日開催予定の理事会に諮ることの紹介があった。
8. 資料 50-8 により大場副委員長から年度区切りの変更について提案があった。現状で問題はないが、理事との足並みをそろえる観点から理事任期と倫理委員任期をそろえることが了承された。任期の調整については、平成 23 年 4 月に予定している新法人への移行後に、事務局が必要な手続きを行うこととした。
9. 資料 50-9 のとおり平成 22 年度倫理委員会委員名簿が配布された。所属部署などの修正と、委員の 50 音順の並び替えを行うこととした。
10. 資料 50-10 により作田幹事から平成 22 年度倫理委員会への申し送り事項について紹介があった。タイトルを「第 5 期」から「平成 22 年度」にするなど資料の表現上の修正と、10 周年記念行事を追記することとした。申し送り事項については、今後、誰が何を行

うかを決めておく必要がある。学会誌に倫理特集を組む件については、10周年記念行事として規定制定委員など12名の方に毎月コラムを執筆掲載する方向で検討することとした。

11. 資料50-11により矢野委員から技術倫理協議会の活動状況の報告があった。また、今後の本協議会への参加担当者は、大場副委員長と平野氏とし、都合がつかない場合は、東京在住の委員が代理出席することとした。

12. その他の案件として、以下の報告・議論があった。

- ・宮越委員から故鳥飼委員他作成の論文が若干の修正のうえ、投稿手続き中である旨報告があった。

- ・杉本委員から2010年春の年会の報告書(案)のコメント依頼があった。

- ・中国電力島根原子力発電所における点検不備問題については、状況を見守ることとした。

13. 次回は第13回倫理研究会の開催に合わせ、7月20日の週あたりに開催することとし、日時・場所は後日決定することとした。

以上